

ホテル稼働率 都内80%割れ

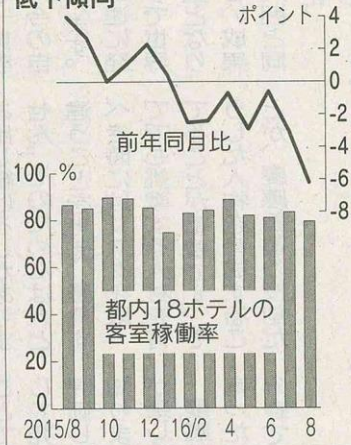
東京都内のホテルの客室稼働率が低下している。日本経済新聞社がまとめた主要18ホテルの8月の稼働率は79.2%と、前年同月より6.2%下がった。7カ月連続の前年割れで、マイナス幅は今年最大。ほぼ満室で予約をとるのが難しいとされる80%台を割り込んだ。宿泊料金の上昇などを受け、国内客、訪日外国人客ともに都内ホテルの利用を避けたようだ。

8月下落幅、今年最大

8月は16施設が前年を下回り、7施設は10%以上落ち込んだ。「パレスホテル東京」(千代田区)は74.4%と前年同月に比べて10.7%下落。8割を切った。「日本人の需要が大きく減り、特に高単価な都内でホテルで宿泊を楽しむ都内や近郊の顧客需要が減った」。「帝国ホテル東京」(同)も4%下がり58.2%にとどまった。

90%台は「ロイヤルパークホテル・ザ・汐留」(港区)と「品川プリンスホテル」(同)の2施設。80%台は「ホテルオークラ東京」(同)など。8施設で、従来の高稼働に一服感が出ている。客足が鈍くなったことを受け、値ごろ感のあるプランなどを導入する動きも増えてきた。

都内の主なホテルの稼働率は低下傾向



宿泊料上昇で利用避ける

更がでず、事前に料金を支払えば安くなるプランを発売。自社のサイトなどで販売する最も廉価な料金として設定する2万2千〜4万4千円(1室1〜2人利用時)から、3500〜7500円割り引くようにした。パレスホテル東京は会議イベントなど「MICE(マイス)」と呼ばれる分野で海外への営業を強化。海外のグループ客の獲得を進めており、「9〜10月は堅調」としている。ほかにも帝国ホテル東京も「秋の予約は今のところ好調だ」としている。販売テコ入れもあって秋以降はやや需要が持ち直しているようだ。